

平成27年度 第2回 環境循環系セミナー

演題: Occurrence, sources and degradation of Diuron, Irgarol 1051 and Fenitrothion in water, sediments, plankton and fishes of coastal sea and river waters, Japan. (沿岸水および河川水、堆積物、プランクトン、魚類中のジウロン、イルガロール1051、フェニトロチオンの存在量、発生源、分解過程)

講演内容: 日本および多くの国でジウロンは船底汚染防止剤および除草剤として用いられている。イルガロール1051は船底汚染防止剤として、またフェニトロチオンは殺虫剤として広く用いられている。これらの農薬は、河川水や沿岸水を汚染し、堆積物に残留し、プランクトンや魚類などの水界生物体内に蓄積するが、その実態は十分に解明されていない。本研究では、これらの農薬の広島県河川水、瀬戸内海海水、堆積物、プランクトン、魚類、海洋動物体内中の分布、動態、発生および分解過程について調査した。黒瀬川においては、3つの農薬が検出され、特にジウロンおよびフェニトロチオン濃度が高く、農業活動に対応した季節変化があることが示された。瀬戸内海海水中では、船底塗料から溶脱したジウロンおよびイルガロール1051が多く検出された。また、ジウロンおよびフェニトロチオンが陸地から河川を通して供給されることも示された。さらに、瀬戸内海におけるこれらの農薬の物質収支を調べた結果、堆積物への移行が主な除去過程であることが、また外洋への流出や光分解過程も無視できないことが示された。本セミナーは、学位論文公開発表会を兼ねています。

講演者: Kaonga Chiziwa Chikumbusko (生物圏科学研究科博士課程後期)

日時: 2015年7月30日(木)午後1時—2時

場所: 総合科学部A704号室

* 本セミナーは、生物圏科学研究科共同セミナーになります。

世話人 佐久川弘(内線6504)